

神棚拝詞

このかむどこに まします かけまくも かしこき
此の神床に 坐します 掛けまくも 畏き

あまてらすおおみかみ うぶすなのおおかみたちの
天照大御神 産土大神等

おおまえを おろがみ まつりて かしこみ かしこみ ももうさく
大前を 拝み 奉りて 恐み 恐み も白さく

おおかみたちの ひろき あつき みめぐみを かたじけなみ まつり
大神等の 広き 厚き 御恵を 辱み 奉り

たかき とうとき みおしえの まにまに
高き 尊き 神教えの まにまに

なおき ただしき まごころを もちて まことのみに たがうことなく
直き 正しき 真心を もちて 誠の道に 違ふことなく

おいもつ わざに はげましめたまい いえかどたかく みすこやかに
負い持つ 業に 励ましめ給ひ 家門高く 身健やかに

よのため ひとのために つくさしめ たまえと
世のため 人のために 尽さしめ 給へと

かしこみ かしこみ ももうす
恐み 恐み も白す